

役場の窓

第十三回高志社会福祉大会開かれる

民生児童委員 林昭明氏 表彰される



功効者の表彰風景

社会の急激な変動に対処し明るい町づくり、村づくりを進めるため地域住民の総力を結集して社会福祉の水準を向上しようと、去る八月一日第十三回高志社会福祉大会が、美山町美山中学校で開催された。当日は高志管内七町また美山莊に入所している重度身体障害者も参加した。



鼓笛を楽しむ児童たち

このへき地児童交換会は三年前から企画されていましたが、四十二年には予算の関係上、海岸と山地の特定校を指定して行なわれ、翌四十三年には本県で国体が開かれたため中止になつたが、本年度から新しく実施内容を変え特定校に限らず広く県下全域のへき地校の四年生を対象にして、へき地児童交換会が去る八月二十一日午前十時より県民会館において開催された。この日県下四十三校から約二六〇人が参加し、まず知事を始め、県教育長等の挨拶があつたあと、各地区代表の発表が行なわれ、本村からは朝日小学校(後野分校を含む)十八名大納小学校四十二名下山小学校六名の合計六十六名が参加し、「山のくらし」と題し、九十五枚のスライドを映写して和泉村の様子を参加者に紹介した。

へき地児童交換会催さる

本村四年生全員参加

を観賞したあと、県庁を始め国鉄機関区、運動公園など福井市の主なる施設を見学して、郷土福井の姿を直接学習し有意義な一日であった。

講演会催さる

去る八月六日午後四時三十分より中壇会館において、鉢山関係に権威ある元京大教授であり和泉村誌の編集を担当されている小葉田先生を始め、三井文庫研究員の岩崎先生らによつて、日本鉢山史及び神岡・和泉村鉢山史についての講演会があつた。

この日永松所長ら鉢山関係者ら約五人十人が集まり、二時間余りにわたる講演で、本村鉢山史の認識を新たにした。

林間学校を開設

七月二十二日より八月十一日まで
学徒をまねく和泉村

都塵をさけて海に山にレジャーを楽しむシーズンは、学生をもかりたてて海辺に、山間に涼を追ひ修練と、いこいの場をもとめさせ、この和泉村にキャンプ設営、合宿訓練等の希望申込があつたので、本村が電源開発会社より買入れた宿舎の一棟を林間学校用に開放したのであります。最初は岐阜市済美女子高校卓球部の先生二名、生徒十二名計十四名の一行は七月二十二日より七月三十一日まで、統いて八月三日四日は名古屋大学地質研究班一行八名八月五日六日を予定していた、勝山市野向小学校は豪雨のため中止となつたが、八月七日から藤島高校剣道部の猛訓練が朝日小学校講堂で開始されまし



中壇会館での講演会風景

戦没者の叙勲は

もう受けられたでしようか

戦没者の叙位叙勲は昭和三十九年に再開され本年度で終了することとなりますが、まだ叙勲の通知を受けて居られない遺族の方は今すぐ役場又は県厚生世話課で備付の調査票により、お申出下さい。

叙位叙勲を受ける範囲

大東亜戦争(昭和十六年十二月八日)二十年九月一日)に関する勤務に従事したに關連して死没したもの。但し生前に叙勲が極限に達している方において死亡された方は昭和二十七年四月二十七日までの死没に限ります。又右に該当する方でも退職(復員)後は除かれます。(例)死亡前の階級が兵の場合旭七、下士官の場合旭六)



地であつても災害に苦しむ人あれば進んで救護に協力したいものである。
◆毎日の新聞を見て交通事故の五、六件見当らない日はほとんどない年々増加して行く交通事故は年毎に史上最高と全く寒心に堪えない表現をしている。事故の影には多く悲劇がくり返されて被傷者、加害者共に生きながらその一件の事故で自分的人生を終つてしまふ例もすくなくない。運転者も一般も事故に対する関心を再度深く考えて見る必要がある。事故を起すのは他人で被害を受けるのはよその人と思う様な気持が多少もあるのではないだろうか。観光ブームに乗つて多数の自動車の出入で我が和泉村でも道路を歩けば交通事故は付きものと思わなければならぬ時代が来ている。その割に一般的の関心は薄い様に感じられる市町村の行つている交通災害共済えの加入状況から見てもその様な感じを与えている、もちろん加入状況そのものが判断の全部とは言えないまでも一部の材料ではある七月末日現在の和泉村の加入状況は人口二五六一人に対し加入者七五五人と加入率三四%にしか過ぎない。とにかく事故は他人が起し他人が被傷者となると思ふ様な気持は切くて全村総力を上げて事故防止に協力したいものである。共済制度も他人を救うこと自分が自分を救うことである自覚に立ち今一日の無事故に感謝して全村加入の実現に協力を呼びかけたい。

◆ 犬の放し飼いはやめよう

